

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p style="text-align: right;">教務 進路指導 商業</p> <p>(1) 褒め育ての教育を実践し、その成果を共有することで教育力の向上を図る。</p> <p>(2) 「資格の取得」と「技術の習得」を勧め、ビジネス社会で生きるための社会人基礎力を身につけさせる。</p> <p>(3) 常に授業力を高める工夫をし、基礎基本の充実とより専門性の高い授業を両立させる。</p> <p>(4) 「主体的・対話的で深い学び」を定着させ、キャリア教育の充実を更に推進する</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【褒め育ての教育を実践し、成果を共有して教育力の向上を図る】教務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒を尊重し、褒めて伸ばす教育を学校全体に浸透させるべく、教職員全員で取り組み、意欲的かつ積極的に学校生活に取り組む生徒が増やすべく活気ある学校づくりを進める。 <p>指標 学校が明るく楽しいという生徒が過半数を超えるよう取り組み、授業アンケート等を通してその結果を確認する。</p>	B
<p>取組内容②【資格の取得と技術の習得を勧め、社会人基礎力を身につけさせる】商業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種検定において基礎資格である3級の取得を目標とし、3年生においては上位級や民間主催の検定試験を合格させるように授業を工夫する。また、全ての教科、科目を通じてビジネスマナーやコミュニケーション力の向上を図る。 ・知識・技能の習得を体系的・効率的に行うため、また生徒自身の情報収集やプレゼンテーションに活用するためにICT機器を利用した授業を実施する。 ・課題研究の授業において、外部講師による講演の実施や地元企業との連携を継続的にを行い、郷土を愛し、社会に貢献する態度を育成する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種検定試験における3級の取得率を7割とする。 ・プレゼンテーションルームを活用し、ICTを活用した授業を行う。 ・外部講師による講演を複数回実施し、地域企業と連携した販売実習を行う。 	B
<p>取組内容③【基礎基本の充実と高い専門性の両立、授業力の向上】教務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員個々が教材や授業方法の改善を実践し、基礎学力の確実な定着を図るとともに、意欲の高い生徒にはより高度な内容の習得やより高い級の資格を取得できるよう、目標を高く設定し、クリアできるよう指導していく。 ・例年通り公開授業月間を設定し、互いの授業の見学や校内外の各種研修を通して教員個々が授業力向上に向け研鑽する。また、年間を通して自由に互いの授業を見学し気軽に意見交換ができるような雰囲気を作っていきたい。 	B

<p>指標 生徒のアンケートにおいて、授業が分かると回答する生徒が60%を超えることを最低限の目標とするが、それ以上に、授業が理解できていないという生徒の割合を限りなく0に近づけられるよう学校全体として取り組んでいく。</p>	
<p>取組内容④【「主体的・対話的で深い学び」の定着と、キャリア教育の充実・推進】進路 ・1年次からしっかりとした進路意識を持ち、自ら学ぶ姿勢を持って取り組める生徒を育成し、今後4年間で、卒業時の進路未決定者ゼロをめざす。 ・進路指導部と学年が連携し、キャリア教育、進路相談を充実させる。</p>	B
<p>指標 進路未決定者を減らす。(昨年比) 各学年とも進路説明会やLHR等を利用して、進路関係の話をする機会を増やす。また、進学については高大連携授業を取り入れ大学での学びに対する理解を深め、これからの目的や将来の進路について考えさせる。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容① 教育活動全般を通して、全教職員で取り組んだ。行事等に積極的に関わる生徒も多く、また検定取得に向けてコツコツと努力する生徒も増加傾向にあるように思われる。学校アンケートでは、「学校は楽しいですか」という質問にほぼ8割の生徒が「楽しい」と回答し、また「本校に来て良かったですか」の質問にも8割近くが「良かった」と回答している。学校生活に肯定的な生徒が多いことから成果が現れているといえるのではないだろうか。</p>	
<p>取組内容② 1年生全体の3級の取得率は、珠算・電卓実務検定(普通)86%(ビジネス)90%、ビジネス文書検定(速度)78%、簿記実務検定40%、情報処理検定73%であった。全体的には目標であった7割を超える取得率を達成することができたが、検定試験直前の休校措置が度重なり簿記実務検定の取得率は目標を大きく下回った。一方、日商簿記検定や各種検定の上位級取得への啓発を行い、意欲的に取得に向けて取り組む生徒が増加した。2,3年生を中心に、上位級取得者への補習を実施した。このほか地域の商店街との連携行事や地域の落書き対策事業など、学校外との連携を図り、地域で商業教育を展開するよう努めた。生徒も積極的に参加し、自らのキャリア形成に役立てることができた。 また、ビジネスマナーやコミュニケーションに関しては、3年生の課題研究を中心に取り組みを行った。プレゼンテーション、販売実習を通じて生徒自身が主体的に課題に取り組み、社会人基礎力を磨く姿が見られた。 今年度は課題研究や簿記においてプレゼンテーションルームを使った授業やプロジェクターを利用した授業を多く実施し、昨年度に引き続きICT機器を活用することができた。</p>	
<p>取組内容③ 教員個々が教材や授業方法の改善を実践し、基礎学力の確実な定着を図り、学習意欲の高い生徒にはより高度な内容の習得や高位の検定・資格を取得できるよう、目標を高く設定し、指導を行なった。 例年と同じく公開授業月間を設定し、互いの授業の見学や校内外の各種研修を通してそれぞれが授業力向上に向け研鑽する機会を設けたが、コロナ禍において新たな視聴覚教材の作成に多くの時間を割かれたこともあり、昨年度ほどの見学数は得られなかった。しかし、授業内容を動画教材にする技術等はほとんどの教員が実施し、大きなスキルアップにつながったと感じている。</p>	

取組内容④

各学年において、LHRなどを通じて進路に関する話をする機会を増やし、また、外部講師を招いて早期から進路意識を高めるように取り組んだ。

3年次においては、年内にほとんどの生徒の進路が決定した。未定者については指導を継続している。

次年度への改善点

取組内容①

学校生活に肯定的な生徒は多いが、対人関係のトラブルから登校できなくなったり、学習進路変更をする生徒も減少しているとは言い難い状況がある。また学校生活は明るく送っているが、基本的な生活習慣がなかなか身につかず、成績も芳しくない生徒も多い。アンケートの数字と実際の学校生活の内容を合致させるように今後も全教職員で意欲的に取り組んでいく。

取組内容②

基礎資格である3級の取得者数の向上をめざすために、基本的な学習に対する姿勢の確立・定着と、より一層の丁寧な指導が必要である。また、次年度より始まる「ライフプランニング」を中心にキャリア教育と関連付けながら、生徒が主体的に商業の学びを深める環境づくりを進める必要がある。1年生については2年次よりコース制が採用されるため、自身のコース希望と必要な資格がリンクするように指導する。2年生や3年生では、各種検定1級取得、あるいは日商簿記検定の取得にむけて意欲的に学習する生徒が増加している。生徒にむけての啓発を継続的に行いながら、より上位級の受験者および合格者の増加を目標とする。さらに、次年度は今年度以上に校外での連携を強め、地域全体で商業教育を展開していくことを心掛けたい。

取組内容③

更なる授業力の向上に向けて、身近な校内の教員どうしの授業を積極的に活用し、切磋琢磨し、研鑽を続けていく。動画教材の作成についてもオンライン授業の一方法として更に効果的な利用方法を研究し、実践していきたい。

取組内容④

3年次進級時に進路目標が定まるように、1・2年次から大学・短大・専門学校・公務員・就職において分野別講習会および進路講話を行い、生徒の進路意識を高める工夫をする。

就職希望者が早期に内定がもらえるよう、入社試験に不可欠な基礎的学力の充実・コミュニケーション能力、基礎学力、責任感、積極性・外向性、資格取得の向上に努める。また、進学合格者に対し入学まで取り組むべき課題を与え、入学後の学習の準備を講ずることが望ましいと思われる。